

長の使命として、今後の日本の将来を見越した、新しい第2期での本ソサイエティのあり方を模索していきたいと考えている次第である。ぜひ皆様の本ソサイエティに対する積極的な御意見と御支援を頂きたいと考えている。

さて、実際の具体的な作業としては、関連組織との連携を強化したいと考えている。

14年度は情報処理学会と組んで、情報科学技術フォーラム(FIT)を主催した。15年度は、2回目を迎え、第1回目の反省を踏まえ、極めて順調に開催することができた。このFITは、回を重ねるに従い、より日本における情報科学の総合的な大会としての重要な役割を果たすことになると考えられる。16年度は、再び情報・システムソサイエティが担当することになるので、より一層の充実化を試みたいと考えている。

また、今後、近い関係にあるヒューマンコミュニケーショングループとのより一層の強い関係を築きたいと考えており、今後10年を見越した協力のあり方を検討したいと考えている。

また学会誌についても、一部の研究会での情報処理学会の研究会論文誌への協調や、複数の学会の共同英文誌の発行問題が議論されており、本ソサイエティの特色・独立性を生かした形で協力できるような道を検討する予定である。更に国際的な学会としてもIEEE Computer Societyだけでなく、各国の対応組織との協調を進めていけるとよいと考えている。また、今後10年の情報分野の広がりに対応して、芸術デザイン、映像コンテンツ、生命情報、知的財産、電子ビジネス、産学連携などといった新しい分野を研究会の形で取り込む努力もしていきたいと考えている。

◎ ヒューマンコミュニケーショングループ

インターネットの高度化やブロードバンドネットワークの普及が期待され、世界中のだれもが恩恵に浴せる高度情報化社会が急激に実現されつつある。これらの環境を有効に利用するため、人間中心で、すべての人にとって使いやすく、社会的にも健全なシステムの構築を目指す必要がある。

ヒューマンコミュニケーショングループは、このような社会の要望にこたえるため、コミュニケーションに関する学際的研究活動を行う組織として設置され、コミュニケーションに関する広範な技術とともに、人間そのものに深くかかわる心理学や社会学なども対象とし、各ソサイエティに横断的に、かつ他学会とも自由に連携しつつ、その活動を続けている。

本年度は、HCGシンポジウムでは先進的で独自性の高い特別講演を企画するとともに、従来と同様に情報処理学会・本学会情報・システムソサイエティと共催する「Forum on Information Technology (FIT)」に企画提案し、更に、他ソサイエティ・学会とも協力して、オープンで、柔軟性の高い活動を続けてゆきたい。また、グループ設立当初の目的を再確認し、グループ活動の活性化に努めたい。

1. 大会に関する事項

1.1 2004年総合大会

次により開催する。

期日 平成16年3月22日(月)～25日(木)

場所 東京工業大学大岡山キャンパス(目黒区)

講演件数は3,225件。

1.2 2005年総合大会

次により開催する。

期日 平成17年3月21日(月)～24日(木)

場所 大阪大学豊中キャンパス(豊中市)

講演件数は約3,200件が見込まれる。

1.3 2004年ソサイエティ大会

基礎・境界、通信、エレクトロニクスの3ソサイエティ合同で次により開催する。

講演件数は2,000件程度と考えられ、特別企画の充実等により各ソサイエティの特色を発揮するよう努める。

期日 平成16年9月21日(火)～24日(金)

場所 徳島大学常三島キャンパス(徳島市)

1.4 情報科学技術フォーラム(FIT) 2004

情報・システムソサイエティ、ヒューマンコミュニケーショングループと情報処理学会合同で次により開催する。

期日 平成16年9月7日(火)～9日(木)

場所 同志社大学京田辺キャンパス(京田辺市)

2. 国際会議に関する事項

各ソサイエティは、主催・共催の国際会議を次のとおり開催する。

- (1) COOL Chips VII: 2004.4.16～18 (横浜情報文化センター)[ES]
- (2) 2004 International Symposium on Electromagnetic Compatibility (EMC'04/Sendai): 2004.6.1～4 (宮城: 仙台国際センター)[CS]
- (3) 2004 International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications (ITC-CSCC2003): 2004.6.5～8 (Sendai/Matsushima, Miyagi-Pref., Japan)[ESS]
- (4) OptoElectronics and Communications Conference (OECC/COIN 2004): 2004.7.12～16 (パシフィコ横浜)[CS・ES]
- (5) 2004 International Symposium on Antennas and Propagation (ISAP'04): 2004.8.17～21 (宮城: 仙台国際センター)[CS]
- (6) 第19回 IEEE 半導体レーザー国際会議 (19th IEEE International Semiconductor Laser Conference; ISLC2004): 2004.9.20～24 (鳥根県松江くにびきメッセ)[ES]
- (7) 2004 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications (NOLTA2004): 2004.11.29～12.3 (Fukuoka, Japan)[ESS]
- (8) Asia and South Pacific Design Automation Conference 2005 (ASP-DAC2005): 2005.1.18～21 (Shanghai, China)[ESS]

3. 出版に関する事項

3.1 論文誌

和・英論文誌ともそれぞれ、各ソサイエティにおいて編集を行うこととする。

また、15年度に引き続き、和・英論文誌のCD-ROM作成、和・英論文誌の電子公開を継続することとする。

ア. 和文論文誌

本文総ページ数 8,620 ページ

(論文 754 件, レター 152 件)

年間発行部数	490,800部(月平均40,900部)
イ. 英文論文誌	
本文総ページ数	13,700 ページ (Paper 1,235 件, Letter 452 件)
年間発行部数	124,800 部(月平均 10,400 部)

◎ 基礎・境界ソサイエティ

	(和文論文誌)	(英文論文誌)
	1,650 ページ	4,120 ページ
[内 訳]		
一般論文・レター	1,190 ♪	
一般 Paper・Letter		1,387 ♪
特集・小特集	321 ♪	2,544 ♪
(和文 3 回, 英文 13 回)		
英文論文誌紹介	24 ♪	
和文論文アブストラクト		48 ♪
総目次	12 ♪	32 ♪
その他	103 ♪	109 ♪

◎ 通信ソサイエティ

	(和文論文誌)	(英文論文誌)
	2,370 ページ	4,070 ページ
[内 訳]		
一般論文・レター	1,562 ♪	
一般 Paper・Letter		2,605 ♪
特集・小特集	682 ♪	1,241 ♪
(和文 3 回, 英文 8 回)		
英文論文誌紹介	44 ♪	
和文論文アブストラクト		84 ♪
総目次	12 ♪	32 ♪
その他	70 ♪	108 ♪

◎ エレクトロニクスソサイエティ

	(和文論文誌)	(英文論文誌)
	1,350 ページ	2,360 ページ
[内 訳]		
一般論文・レター	846 ♪	
一般 Paper・Letter		554 ♪
特集・小特集	360 ♪	1,605 ♪
(和文 2 回, 英文 13 回)		
英文論文誌紹介	36 ♪	
和文論文アブストラクト		48 ♪
総目次	12 ♪	32 ♪
その他	96 ♪	121 ♪

◎ 情報・システムソサイエティ

	(和文論文誌)	(英文論文誌)
	3,250 ページ	3,150 ページ
[内 訳]		
一般論文・レター	2,357 ♪	
一般 Paper・Letter		1,366 ♪
特集・小特集	611 ♪	1,557 ♪
(和文 3 回, 英文 13 回)		
英文論文誌紹介	48 ♪	
和文論文アブストラクト		84 ♪
総目次	32 ♪	22 ♪
その他	202 ♪	121 ♪

3.2 電子ジャーナル

エレクトロニクスソサイエティでは、本会初の Web を用いたペーパーレス研究速報英文論文誌「IEICE Electronics Express (略称 ELEX)」を 4 月 10 日に創刊する予定である。ELEX は速報性を重視しレターのみを掲載。電子媒体の特徴を生かし、動画、音声等の掲載が可能。毎月 10 日と 25 日の 2 回発行で、年間 240 件の掲載を目指している。

3.3 ニュースレター、ソサイエティ誌

各ソサイエティごとに論文誌に挟み込み、または付録として発行する。

4. 研究会活動に関する事項

第一種、第二種、第三種の各研究会は自由度の高い活動が定着しており、16 年度も更に活発に講演会、学術研究集会、サマーミーティング等を行う。

(1) 第一種研究会は、平成 16 年度に基礎・境界ソサイエティで 1 件の新設と、1 件の名称変更があった。66 の研究専門委員会が担当する研究分野の基礎及び新分野の開拓を推進する。

研究専門委員会		
基礎・境界ソサイエティ	16	研究専門委員会
通信ソサイエティ	16	♪
エレクトロニクスソサイエティ	13	♪
情報・システムソサイエティ	17	♪
ヒューマンコミュニケーショングループ	4	♪
計	66	♪
	[研究会開催回数]	[研究会発表件数]
基礎・境界	106 回	1,870 件
通信	117 回	2,575 件
エレクトロニクス	119 回	2,173 件
情報・システム	112 回	2,011 件
ヒューマンコミュニケーション	23 回	400 件
計	477 回	9,029 件

(2) 第二種・第三種研究会、学術研究集会等は、必要に応じて自由に活動する。

5. 選奨に関する事項

各賞とも規程どおりに選定することとする。

◎ エレクトロニクスソサイエティ	
エレクトロニクスソサイエティ賞	3 件
エレクトロニクスレター論文賞	1 編
◎ 情報・システムソサイエティ	
情報・システムソサイエティ論文賞	1 編
◎ 情報・システムソサイエティ/ヒューマンコミュニケーショングループ(情報処理学会と合同)	
船井業績賞	1 件
船井ベストペーパー賞	3 編
FIT 論文賞	7 編
FIT ヤングリサーチャー賞	
発表件数の 1.5% 以内の受賞者	

6. 会員に関する事項

各ソサイエティとも魅力ある企画で会員増強に努めることとする。